

消火訓練や救護訓練などに婦人パワーが活躍

防災訓練に13万人が参加

9月1日の防災の日、県下一斉に防災訓練が行われました。

午前9時の警戒宣言発令と同時に、各地区の自主防災組織を中心に、市



(富士見台自主防の避難訓練)

民13万人が参加して活発な訓練を展開しました。特に平日ということで、主婦が、初期消火訓練や、応急救護訓練などに積極的に参加し、地震がいつ起きても対処できる訓練をしました。

一方今回の教訓として、各人が、正しい情報を知ってデマにまどわされない知識をもつことや、避難も自分達の地域の状況を判断して、まず火災などの2次災害を防ぐことの大切さをあらためて知らされました。

また訓練に参加したみなさんが、地震防災を自分の問題としてとらえてきたことが、より実戦のための訓練になりました。



(水防団による土のう積訓練)



(新浜)

グループ訪問 30

器械体操などを中心に

あじさいクラブ

赤のトレーニングズボンと白いTシャツ。いかにもスポーツウーマンといった感じの人達ばかり。

昭和53年度、市主催の婦人軽体操教室修了生が、主体となって発足。

現在、会員21人、平均年齢36歳のママさん軽体操クラブである。

毎週金曜日の午前中、勤労者体育

センターで柔軟体操・トリム体操・器械体操などを中心に行っている。

代表者の中村夏子さん(46歳)は、「美容と健康のために最高。また、精神的にも張りが出ます」と話していました。





(主防のボートによる救出訓練)



(ヘリコプターによる医薬品の空輸)



(中島新道町婦人の初期消火訓練
写真提供 加藤貞行町内会長)

"来年もまたきますよ、"

市長が市内最高齢者を訪問

(食事は一日二食という佐野さん)



(一族に囲まれて喜びの清水さん)



いつまでも元気で、長生きしてくださいと、9月14日・15日、市内最高齢者の佐野恵作さんと、清水ふでさんを渡辺市長が訪問し、敬老の日の贈り物を手渡しました。

佐野さんは、ひ孫が132人もあり今年、やしゃごが誕生予定とのこと。

清水さんも、最近耳が少し遠くなった以外は元気。

おふたりとも長寿の秘訣は、おこらないこと、腹八分目の食事、夫婦円満と話してくれました。

市長が、「来年もまたきますから元気でいてください」と話しかけるとおふたりとも元気にうなずき、家族の方々も「県下最高齢者になるまで元気でいてほしい」と話していました。



母親に牛乳を

無料配布して

(こえ) 都市によっては、母子手帳

が交付されると同時に市で牛乳を支給してくれるところがあるようです。

富士市でも母子手帳交付から一年位は、母親に無料で牛乳を支給していただければと思いますがどうでしょうか。(松岡Mさん)

(こたえ) 牛乳の無料配布については、生活保護世帯、市民税の非課税世帯の妊婦または、低体重児を対象に実施しています。

その支給期間は、妊娠5ヶ月からで、出産後も3ヶ月間支給されるほ

か、乳児の分として、生後4ヵ月から12ヵ月まで支給されます。

これは、健康な発育のため効果があるといわれている牛乳の購入が、経済的に困難な家庭を援助しようとするものです。

また一般家庭までこの制度を適用することについては、現在考えていませんが、各家庭の経済的な能力の問題をどう考えていくかによって検討する必要はあると感じています。

(市・健康課)